

I 研究の概要

1 研究主題

学校教育目標

やさしく かしこく たくましく

目指す子ども像

- ・みんなと仲よくする子
- ・進んで学習する子
- ・最後までやりぬく子

「児童理解を深めた指導法の研究」 —個に応じた教育的支援の充実—

学校経営の方針

- ・学校教育目標の実現に向け、教職員が一人一人が創意をもって経営を推進し、子どもの思いや願いを伸ばす学校づくりに取り組む。
- ・児童一人一人のよさや可能性をとらえ、生きる力を育む学習指導を展開し、子どもの学びを広げる学校づくりをめざす。
- ・学校自らが「地域に開く学校」をめざし、子どもの活力が地域へ広がる学校づくりを進めるために強い心と体力に満ちた児童を育成する。

2 主題設定の理由

社会的要請から

今日、学校を取り巻く環境の変化は著しく、情報化、少子化、高齢化、高学歴化が進んでいる。その中で、児童に学力・体力・道徳性を確実に身に付けさせる質の高い教育が求められている。また、個に応じた教育の重視、多様な価値観への対応が求められ、児童一人一人に適切な教育が施されなければならない。一方、大人の倫理観、規範意識の欠如、虐待等も増え、児童を取り巻く環境はよいとはいえない。学校においても不登校、いじめ、暴力行為等多くの問題が山積され、「心の教育」の充実が重要になっている。

このような背景のもとで、改正教育基本法を受け、新しい学習指導要領の移行措置がスタートした。「生きる力を育て 絆を深める埼玉教育」を目指し、「生きる力」を確かなものにするために教育目標を実現する学校力・教師力が期待されている。

今までの研究から

本校では、平成17・18年度深谷市教育委員会委嘱「自ら学び、こころ豊かでたくましく生きる児童の育成—進んで学習し、わかる・できる喜びにあふれる指導法の研究—」を全職員一丸となり取り組んできた。その結果、体力を向上させ、基礎・基本を定着させ

てきた。

児童の実態から

本校は、新興住宅地、工業団地、昔からの農業地帯とが混在している地域を学区としている。全体的には、素直で明るく伸び伸びとした生活を送っているが以下のような課題もある。

- 学習において習熟・意欲・構えの差があり、個別指導を要する児童が各学級に数名いる。
- 友だちの気持ちを考えない言動が見られ、コミュニケーション能力に課題のある児童がいる。

従って、上記のような課題に対して理解を深め、職員が個に応じた指導力を身に付け、より望ましい集団形成を図る必要がある。今年度の研究は、今までの研究と実態等から鑑みて、昨年までの研究をベースとして、学級の中の教育的支援を必要とする児童に焦点を当てた研究（知識・理解、手立て・指導法の工夫、環境整備等）をすることで、一人一人の児童の学力を伸ばしたり、学級のお互いの人間関係力を高めたりし、学校全体の「生きる力」を更に高めることができると考える。

3 研究の仮説

研究主題に迫るため、次の仮説を立て、研究を進めていく。

①特別支援教育に関する研修、取組を深めれば、児童一人一人に応じた教育を適切に施すことができるだろう。

②児童が学習しやすい環境を整えれば、学習に対する意欲が高まり、自ら学ぶようになるだろう。

③特別支援教育の実践を日常の授業に生かし、授業改善を図れば、学力は向上し、生きて働く力がつくだろう。

上記の仮説を検証していくために、校内に授業研究部・特別支援教育部・環境整備部の3つの研究部をおき、手立てを考え、方策を打ち出していく。

4 研究のねらい

- ◎身につけた学力を生きて働く力へと高める。
(指導法の工夫・学力を生活の中で生かす工夫・学習の習慣化等)
- ◎子どもの学ぼうとする意欲を高める。
(児童の「学びのかまえ」調査・学習規律の徹底・教室環境の改善等)

本校では、下記のように規定している。

生きて働く力の育成とは

基礎基本をしっかり身につけさせ、生活の中で使える力へと発展させること。

生きて働く力の実際

- ・学習したことを、他の教科の中でもしっかり使えていること。
- ・授業で習ったこと（知識・技能）を、生活に役立て実践していくこと。

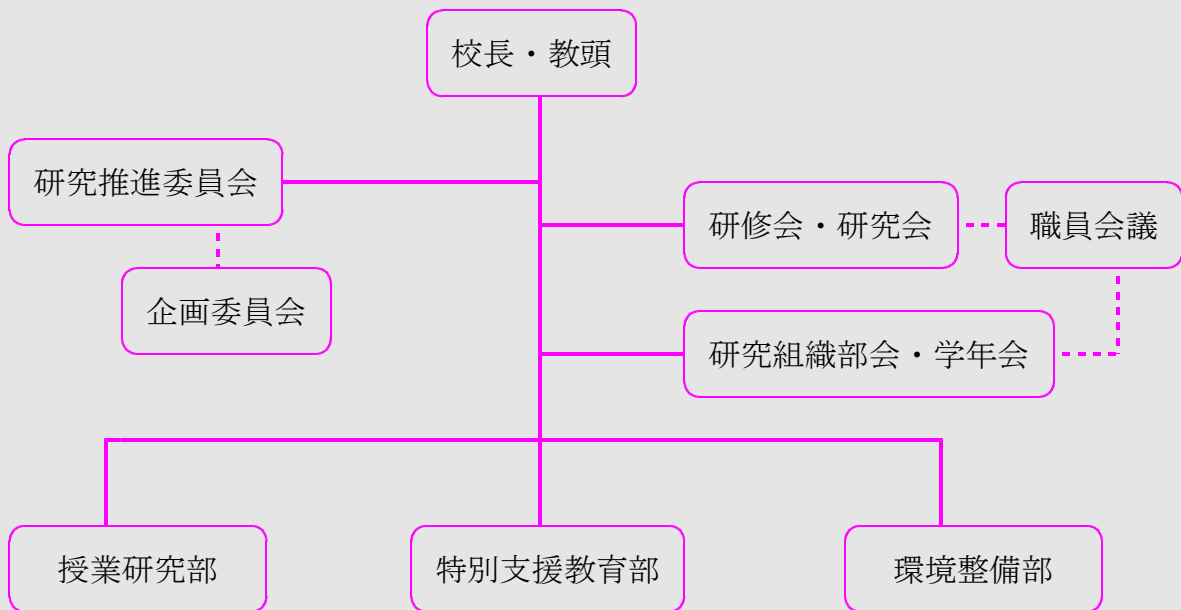
学ぼうとする力とは

きちんといすにすわり、授業を受けていること。→先生や友だちの考えや意見をしっかりと聴くこと。→自分の考えや感想を記入したり、発表したりすること。

学びのかまえとは

興味・関心・意欲等を持って、主体的に学ぼうとする学習の習慣・態度を身につけること。本校では、「姿勢のくずれがない」「かかとを床につけている」等を重点に指導を行っている。

5 研究組織



6 研究の経過（研究会・授業研究会等）

【平成20年度】

- 6月12日（木） 講義：「児童理解の意味・価値」
講師：深谷市教育委員会副参事 久木先生
- 6月16日（月） 授業研究会：2年2組「体育」指導者 岸本教諭
指導者：県立総合教育センター主任指導主事 川勝先生
- 7月 3日（木） 授業研究会：4年2組「音楽」指導者 西沢教諭
指導者：県立本庄支援学校 支援部コーディネーター 八木先生
- 7月28日（木） 教育相談研修会：「ソーシャル・スキル教育の推進」
指導者：深谷市立上柴西小学校 教諭 管野先生
- 8月 1日（金） 教育相談研修会：「あいあいカード、QUアンケート、事例研究」
- 9月11日（木） 巡回相談
指導者：立教大学現代心理学部講師・明星大学人文学部兼任講師 野口先生
- 11月13日（木） 研修会：「授業分析を通して」
指導者：立教大学現代心理学部講師・明星大学人文学部兼任講師 野口先生
- 12月 8日（月） 授業研究会：なかよし「生活単元」指導者 吉田教諭

- 指導者：県立総合教育センター主任指導主事 川勝先生
- 1月29日(木) 授業研究会：5年2組「総合的な学習の時間」指導者 中島教諭
指導者：県教育局市町村支援部教育指導課 指導主事 石川先生
指導者：県教育局北部教育指導事務所支援担当指導主事 持田先生
指導者：深谷市教育委員会課長補佐兼指導主事 栗原先生
- 2月 4日(水) 巡回相談
指導者：立教大学現代心理学部講師・明星大学人文学部兼任講師 野口先生
- 3月 4日(水) 研修会：「授業分析を通して」
指導者：立教大学現代心理学部講師・明星大学人文学部兼任講師 野口先生
- 【平成21年度】
- 6月15日(月) 授業研究会：2年2組「算数」指導者 前原教諭・田代AT
指導者：県教育局市町村支援部義務教育指導課 指導主事 新井先生
- 7月 9日(木) 授業研究会：4年1組「国語科」指導者 大沢教諭
指導者：北部教育事務所学力向上推進担当 指導主事 渋谷先生
- 7月17日(金) 研修会：「発達支援の手法」
指導者：立教大学現代心理学部講師・明星大学人文学部兼任講師 野口先生
- 8月10日(月) 教育相談研修会：「教育相談事例研修」
- 10月12日(火) 授業研究会：6年3組「算数」指導者 尾島教諭・村岡教諭

II 各研究組織部の取組

1 授業研究部

1 ねらい

個々の児童の実態を把握し理解を深め、発問・板書の工夫、ノート指導、学習過程の提示、ICTの活用等、授業の改善を図り、生きて働く力を育成する。

2 取組

(1) 指導案の形式について

第○学年○組○○(科)学習指導案

平成21年 月 日()第 校時 場所
在籍児童 名
指導者

- 1 単元名 (題材名、主題名)
- 2 単元について(題材について)
 - (1) 児童観
 - (2) 教材観
 - (3) 指導観

3 研究主題との関わり

研究主題

- (1) 個に応じた支援
A児の実態

・ A児の実態に応じた支援

B児の実態

・ B児の実態に応じた支援

- -
 -
 -
 -
 -
- 上記の児童も含め、
その他、個に応じた支援

研究テーマを受けて、より分かりやすく、より理解しやすく、どの子も意欲的に活動できる授業を目指した支援を講じていく。

(2) 学力向上に対する手立て

4 単元 (題材) の目標

5 指導計画と評価規準

単元の評価規準と学習活動における具体的評価規準

指導と評価の計画

6 本時の学習

(1) 目標

(2) 評価規準

(3) 展開

学習活動	学習内容	○指導の工夫	・評価	☆個に応じた支援	※学力向上への手立て
<p>〈評価規準と手立て〉</p> <p>① Bのみを明示する</p> <p>② Bに至らない児童について、Bに上げるための手立てを 記入する</p>					

(4) 板書計画

(2) 研究授業参観の視点

- ・ 教師の指導や支援や手だてがどんなところで、どのようになされているか。
- ・ その時の児童の活動の様子がどうであるか。
- ・ それが結果として適切であったかどうか。
- ・ 更に工夫改善する点は何か。
- ・ 板書はポイントを押さえ、わかりやすく工夫されていたか。
- ・ 1時間の学習が理解できる構成になっているか。

(3) 日々の授業における取り組み

① 発問の工夫

- ・ 児童にわかりやすい発問を心がける。
 - 学年、学級の児童にあった言葉で発問する。
 - 「発問は一度」を心がけ、繰り返さない。
 - 発問を繰り返す場合は同じ言葉で行い、言葉をかえない。
 - 短い言葉で、はっきりとする。

- ・本時の目標を達成するための授業の流れを考えて発問を組み立てる。
 - 児童の活動を促す発問をする。
 - できるだけ少ない発問で、学習活動ができるようにする。
 - 目標につながるキーワードの言葉を発問の中に取り込んでいく。

② 板書の工夫

- ・色分けをする

課題 ----- 黄色

キーワード、まとめ... 赤

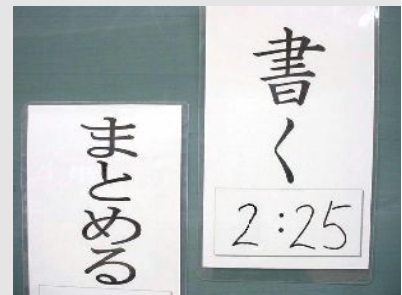
- 毎回決まった色で示すことにより、課題、キーワードが一目で分かるようにする。



③ 学習過程の掲示

- ・授業の流れを掲示
- ・学習パターンの常掲

- 今は何をやる時間なのか、何分まで行うのかを明確に示すことにより、落ち着いて学習できる環境作りを行う。

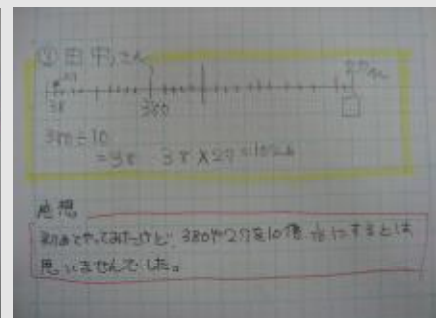
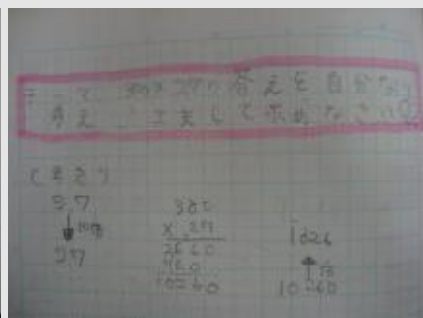
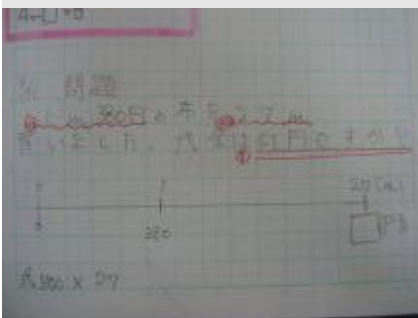


④ ノート利用の様子

ノートは単なる授業の記録だけではなく、その子の学習の足跡・思考の記録とする。そこで、ノートを取るときには次のようなことを約束している。

〈ここでは、算数ノートを例にする。〉

- ・初めに日付を必ず書く。
- ・問題文の中の「わかっていることは —— 青線」「求めるものは —— 赤線」を引いて考えを整理する。
- ・課題は、黄色い線で囲む。
- ・まとめは、赤で書くか赤線で囲む。
- ・間違えたことを書いても消さないで残しておく。
- ・式や図だけでなく、自分が考えていることを文章で書くようにする。
- ・友達の考えも記録しておく。その時に、友達の考えに対する自分の思い、つぶやきも書いておくことと楽しいことを知らせておく。
- ・授業の終わりに「今日の感想」を書く時間をできるだけ設ける。



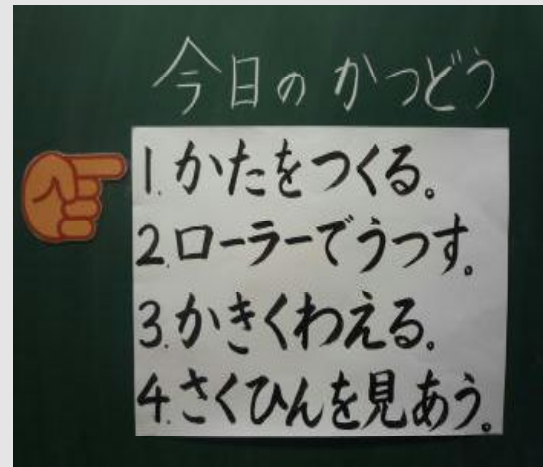
⑤ 学習過程のわかる掲示

1 時間の授業の流れをあらかじめ伝え、その都度目安を持たせるようにした。口頭で伝えるだけでなく、カードや時計で掲示した。これにより、児童が学習活

動への見通しを持ち、自主的に、集中して学習に取り組むことができた。



学習のパターンを常掲。教科により順を入れ替え活用。



活動過程を指マークを動かして示す。
(低学年 図工)



学習時間の目安を示す。
(低学年)

⑥ ICTの活用

本校の各教室には、「パソコン・書画カメラ・ビデオデッキ・テレビ」が一体化されて設置しており、大変有効な教具で、日々の授業の中で活躍している。

その利点は次のようである。

- ・児童の学習への興味関心を高められる。
- ・授業準備の時間を短縮できる。
- ・小さい物を拡大して提示できる。
- ・写真やコピーと違い、実物を見せられる。
- ・児童のノートをその場ですぐに利用できる。
- ・児童の考えを全体で共有できる。
- ・パソコンを活用した授業がスムーズにできる。

(4) 音読・暗唱

①音読朝会

ねらい

- ・明確な発音、腹式呼吸での発声、正しい姿勢を意識させ、リズムよく音読することで音読の楽しさを味わわせ、言語活動を充実させる。
- ・他学年の音読を聞くことで、音読への興味関心を高めさせる。
- ・学年、全校で一つの詩を音読することにより、連帯感や充実感を味わわせる。
- ・内容 年間6回実施（各学年1回の発表）
 - ・各学年の発表 学年で教科書の本文や詩を暗唱し、発表する。（授業で扱ったもの、教師が選んだものなど）
 - ・全校音読 全校で声を合わせ、一つの詩を暗唱する。事前にプリントを配布し、各クラスで暗唱練習をしておく。



6年生の発表



4年生の発表



3年生の発表

②暗唱

- ・金子みすずの詩などを中心に、校内や学級の掲示板上に掲示し、音読朝会の全校音読と平行し、全校で暗唱に取り組む。
- ・暗唱できたら、校長室に行って聞いてもらい、暗唱認定カードをもらう。全員が暗唱できることを目標とする。

(5) 算数学習教室について

	学期末算数教室(7/14,15,16)	夏休み算数教室(7/23,24,28,31)
対象	・5年生以上の希望者 ・各学級5～10名程度を目安に募集	・3年生以上の希望者 ・各学級5～10名程度を目安に募集
指導内容	・1学期の学習内容の復習 ・1学期の学習内容を理解するために不可欠な既習事項の復習	・1学期の学習内容の復習 ・1学期の学習内容を理解するために不可欠な既習事項の復習
指導者	・担任外の職員	・学級担任を主として、担任外職員、1,2年担任が補助として指導に当たる。
指導場所	・図書室	・各教室

算数の特に計算力の定着を苦手としている児童の基礎学力の向上をねらいとして、1学期末と夏休みに入ってすぐの7月中に上記のような内容で算数学習教室を開催した。以下のアンケート結果が示すように対象、学習内容を絞って実施したため、多くの児童が理解を深めることができた。

算数教室アンケート（対象6年生）

Q1 算数学習教室に参加して効果があったと思いますか？

- A大変効果があった。 12人 B多少は効果があった。 20人
Cあまり効果がなかった。 1人 D全く効果がなかった。 0人

Q2 「Q1」でAやBと思った理由は何ですか？

- ・計算が、前より速く正確にできるようになった。 ・約分、通分の意味が理解できた。
- ・約分、通分ができるようになった。 ・約分、通分が多少はできるようになった。

Q2 「Q1」でCと思った理由は何ですか？

- ・都合で2日しか参加できなかった。



夏休み算数学習教室

3 成果と課題

(1) 成果

〈教師サイドから〉

- ・一人一人の児童をしっかり見つめ、どんな支援や手だてが望ましいかを考えたり、実践したりする力がついてきた。
- ・児童が意欲を高める課題や、より分かり易い発問や指示を常に心がけるようになった。
- ・児童が記入した感想やまとめをこまめにチェックし、児童の理解度確認や反省をし、次時への指導に役立てられるようになってきた。
- ・ICTの活用により、具体物を通し視覚に訴え、最小限の発問・指示・説明で理解を深めさせることができた。

〈児童サイドから〉

- ・教師の発問が簡潔・明瞭で、一度だけを心がけてなされるので、児童は落ち着き集中して聞く態度が身につけてきた。
- ・授業の流れ（学習過程）が示されるので、見通しが立つ。また、次は何をするかを考えて、自発的に学習が進められる。
- ・何分までというように指示があるので、活動時間が確保され、安心、集中して作業や活動等に取り組める。
- ・ノートの使い方（記入の仕方）が決まっているので、見やすく整理することができ、ノートを参考書として活用するようになっている。

が参考書役にもなっている。

- ・ノートに自分の思いや考えを書き、友だとの考えとも比較でき、参考にもなるので、考え方や理解が深まり、表現力もついてきた。
- ・共通の学習のきまりがあるので、学年が変わっても児童に迷いが生じない。
- ・音読・暗唱がはつきり、しっかりできるようになり、発表や人前での話を暗記して言える児童が増えてきた。
- ・算数補充学習実施により、算数への苦手意識が取り払われ、算数に対して逃げ腰だった児童に、取り組もうという気持ちが芽生えた。

(2) 課題

- ・適切な支援を行うための教材研究の充実を図る。
- ・常に児童全員を見る気持ちを持ち続ける。
- ・どの児童にも、丁寧に学習する気持ちを育む。
- ・どの児童にも、やる気を起こさせる工夫を講じる。

2 特別支援教育部

1 ねらい

個に応じた教育的支援や対応策を明示したり、学習ルールを提示したりし、共通理解・共通実践のもと、児童一人一人の学ぼうとする力を育てていく。

2 取組

(1) 特別支援を要する児童の状況把握と支援の効果を継続記録

あいあいカードに児童の状況やそれに対する支援の方法、効果を追加記入していく。また、日々の指導をすぐに記録できるように記録メモをとり、担任以外の教師による指導もあいあいカードに記録したり、教師間での共通理解ができるようにしている。



(2) 児童理解のための調査を実施

- ・生活アンケート調査
- ・体力調査（目を閉じて・・・など）
- ・視写力調査（原稿用紙に3分間視写させ、視写力を調べる）
学級の傾向を把握して、支援の重点を知ることができる。

(3) 具体的な個別の支援を考える

対象児童が逐次的処理が得意か、同時的処理が得意かによって課題解決の方法を選べるようにする。

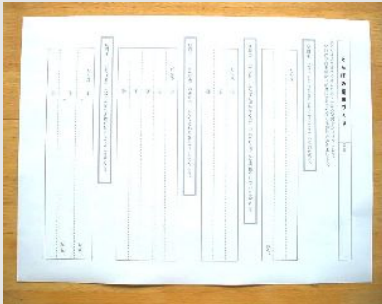
書画カメラの利用



逐次的な処理が得意な児童に対して、学習活動の過程が見て分かるようにするための支援。

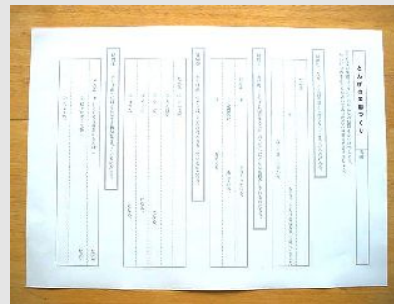
ワークシートの工夫

表側



同時的処理が得意な児童用

裏側



逐次的な処理が得意な児童用

教材の工夫



同時的処理が苦手な児童用に用意した漢字辞典の索引学習に必要な漢字だけを抜き出し、文字を大きくして一覧表にしてある。

(4) 「学びのかまえ」の育成（きとんと座って、姿勢良く学習に取り組む子の指導のために）

①学習の姿勢を良くするための取り組み

・いすの座り方についての指導

1～3年 背中をピン
 掲示 足の裏をピタッ
 机とお腹の間にグーひとつ

4～6年 深く座って腰を直立させる。
 床に足の裏全体をつけさせる。

絵で



・姿勢崩れ（机に肘付け左下がり）しないための指導
 個別指導（よい子を褒めて広げる）

気づかせる指導（気づきカード）

- 鉛筆の持ち方を教室前面に絵で掲示



- 体作り（背筋を伸ばすために筋力をつける・自分の体を支える力）

体育時に必ず実行するものを3つくらい決めて実行する。(幡羅っ子体操から)



トンネル

夏休みも「元気もりもりタイム」

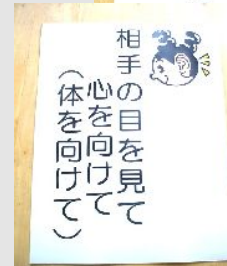
ブリッジ

② 規律 合い言葉で（子どもだちに覚えやすいように）

- 話を聞くときは、

低学年・・・相手の目を見て 手はひざに

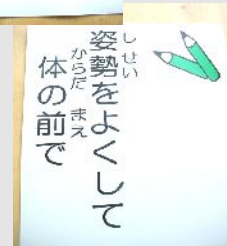
高学年・・・合い言葉『相手の目を見て 心を向けて』



- 文字を書くときは、 全学年・・・姿勢をよくして 体の前で



(机の上の配置図)



- 話すときは、 全学年・・・口を開けて 聞こえる声で



声の大きさ表



(5)「プランニング」の育成

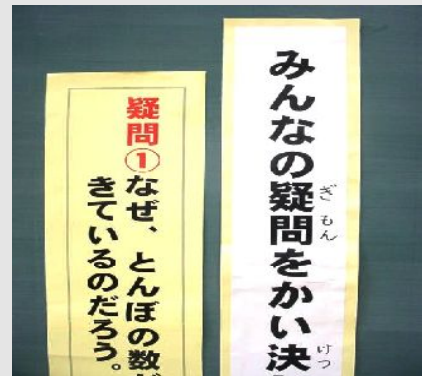
- ① 1日の予定を背面黒板に書く。

一日の学習予定が分かるようにする。
急な変更にも対応できるようにする。

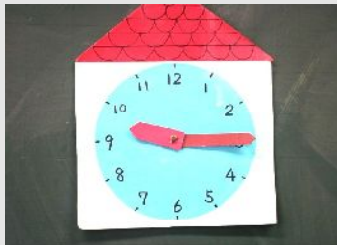


- ② 授業を始めるとき、めあて「今日やることは・・・」を明確にして児童に伝える。

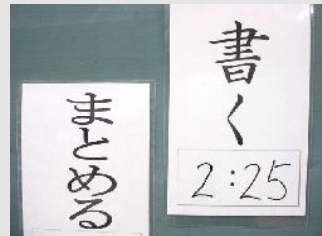
色別にして、課題がすぐに分かるように提示する。



- ③ 児童各自が取り組む時間を明確にする（児童自ら意識して取り組むために）全員に指示するとき・・・何分までに・・・2年生まで時計掲示で示す



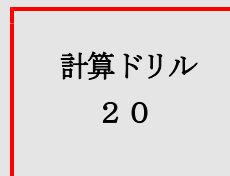
時計板の活用



活動終了めやす時間の掲示

課題が早く終わった児童のために次の指示を示しておく

掲示の例

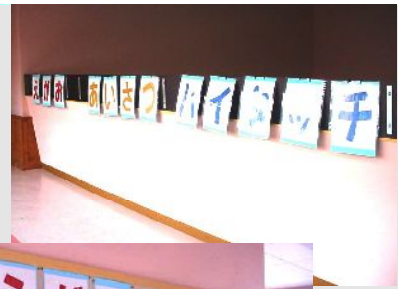


(6)「コミュニケーション能力」の育成

生活アンケートの結果をもとに、コミュニケーション能力を高めるためのソーシャルスキルを特活の年間計画に位置づける。

1年・・・あいさつ

- 2年・・・えがおであいさつ
- 3年・・・ふわふわ言葉（思いやるのある言葉）
- 4年・・・じょうずな断り方
- 5年・・・あたたかい言葉がけ
- 6年・・・友達の気持ち



【教師の合い言葉】

笑顔 声かけ ハイタッチ

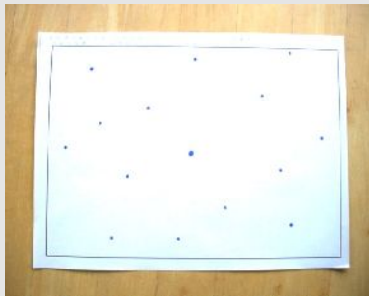
【児童の合い言葉】

笑顔 あいさつ ハイタッチ



(7) 「見る・聞く・憶える力」を高めるためのトレーニング

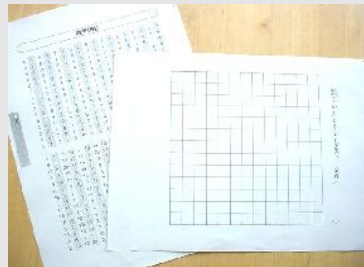
- ・点繋ぎ



始めの点から1番遠い点へと次々に線で結んでいく。

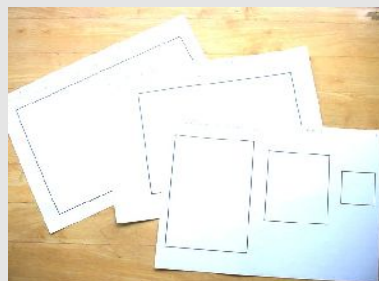
紙面の全体を見ながら、鉛筆を正確にコントロールすることができるようになる。

- ・大きい数書き



聞いた数字より一つ（二つ）大きい数を書き取ることで、書きながら聞き取ることができるようにしていく。

- ・塗りつぶし



決められた時間内に隅々まで塗りつぶす。

早く正確に鉛筆を動かすことで持ち方が矯正される。

・ひと筆書き



紙面全体を見ながら自分の思うように鉛筆をコントロールする力を育てる。

3 成果と課題

- ・様々な調査や継続的な児童の観察や理解によって、学習や学校生活上の困難さをもつ児童に対する具体的な支援を実践することができた。
- ・全ての児童に共通する支援として、「きとんと座り姿勢良く学習に取り組む子」に育てるための様々な取組は、学級全体の学習意欲を高める効果があった。
- ・学習への困難さを抱えている児童にとって、より好ましい学習環境に整えられることにより落ち着いた雰囲気での学習できるようになった。
- ・特別な支援のために開発された教材を学校全体で共有して活用するための、情報の整備、教材・教具の管理方法を確立することが大切である。
- ・学習や学校生活での困難さを抱えてる児童と、その保護者に対して、より良い教育支援計画を外部専門機関や医療機関と連携しながら作成していくことが必要である。

3 環境整備部

1 ねらい

各学力調査や3つの達成目標の分析を行い、手だてを考察し、児童の指導や支援に役立つ資料や掲示物を作成し、学習の効率化や家庭との連携を図る。

2 取組

(1) 学力状況調査の分析

	よくできている項目	不十分な項目	手立て 国語・算数	手だて 教科以外
2年生	国 ・順序を考えながら文章の内容を読み取る力がついている。 ・目的や順序を考えて書く力がついている。 ・言語事項における丁寧な言い方と普通の言い方の違いを理解している。	・助詞や句読点の使い方の理解が不足している。 ・場面の様子を想像しながら読む力が不十分。 ・「読むこと」「書くこと」に比べ、「話すこと」「聞くこと」の力に課題がある。	○書くことの学習 ・助詞の使い方 ・句読点の使い方 ○話すことの指導 ・主述の照応した発表	・朝の会でのスピーチの活用 ・日直の活動を充実させる ・読書活動の推奨 ・家庭学習の習慣化
	算 ・たし算、ひき算の計算力がついている。 ・長さの概念や長さの比較方法がわかっている。 ・ものの形の把握やものの位置関係がわかっている。	・どの分野も平均に達しているが、個人を見ると個別の指導を必要とする児童が少なからずいる。	・毎時間の学習 ・ドリル学習の確保 ・個別指導	・業前の計算タイムの活用 ・家庭学習の習慣化
3年生	国 ・目的や順序を考えて書くこと「書くこと」 ・書く材料を選択、整理すること「書くこと」 ・大切なことを聞き取ること「話すこと・聞くこと」	・句読点の使い方「言語事項」 ・内容を考えながら音読すること「読むこと」	○読むことの学習 ・毎時間音読する ・正確に読解する ・読書指導 ・個別指導	・話す内容を整理して話す表現力を高める ↓ 発表の場を設ける。 音読集会、詩の暗唱
	算 ・時刻「量と測定」 ・数の意味や表し方とその扱い「数と計算」 ・いろいろな形、三角形、四角形「図形」	・長さ「量と測定」	・物差しの使用 ・コンパスの使い方 ・三角上記の使い方 ・個別指導	・生活の中で量の概念を習得させる ↓ 生きて働く力の育成
4年生	国 ・「話すこと・聞くこと」 ・「読むこと」叙述を基に場面を想像して読むこと	・文章の間違いを直すこと。 ・言語事項一語句の類別、修飾、被修飾語の関係、接続詞、漢字	・言語事項の学習 ・国語辞典の使い方 ・言葉に着目した読み	・作文の指導
	算 ・「数と計算」では、かけ算、「量と測定」では長さ、かさ、重さ	・「数量関係」表やばうグラフ ・資料を読み取る力、条件通りにかき表す力	・数量関係の学習 ・書き方読み取り方 ・ドリル学習の確保	・表やグラフを取り入れたレポートの作成

5年生	国語 ・言語事項（漢字の読み・書き）	・知らせる文章を書く	書くことの学習 ・作文の書き方	・作文やレポートの作成
	算数 ・数と計算	・数量関係、量と測定、思考力 数直線の関係、ドッジボールの重さ	・毎時間の学習の中で考える、計る等具体的活動時間の確保 ・個別指導	・生活の中で量の概念を習得させる ・生きて働く力の育成
6年生	国語 ・言語事項（漢字の読み・書き） ・「話すこと・聞くこと」	・「書くこと」「読むこと」目的や意図に応じて、必要なことを整理して書いたり、読んだりすること。 ・言語事項（ローマ字、接続詞の使い方） ・調べたことを書く	書くこと読むことの学習 ・学習の中で、考えを書く時間の確保 ・毎時間音読 ・ローマ字の学習	・作文やレポートの作成
	算数 ・数と計算	・数量関係 ・資料の分類整理 ・百分率	数量関係の学習 ・1時間の中でドリル学習の確保 ・個別指導	・生活の中で量の概念を習得させる ・生きて働く力の育成

- ※ 1時間（45分）の学習時間の確保
- ※ 児童の活動時間の多様な設定
例 読む・線を引く・話す・書き抜く・読む・話す・まとめる・読む
- ※ 個別指導の徹底 理解のはやい子・時間のかかる子の指導 補充学習やドリル学習
- ※ 家庭学習の習慣化
- ※ 放課後や長期休業口の補充学習
- ※ 読書の推進

(2) 掲示物の作成

担任に、日頃の指導でどんなことを困っているかをアンケートで実態調査し、教室で役立つ掲示物を作ることにした。調査の結果、集中することが困難な児童の指導に苦労していることがわかった。学習活動を早く始められるように、また、学習に集中できるように下記の掲示物を作り学習に役立てた。

○机上使用しやすいように整理できるようにするための、学年に応じた掲示物



低学年用



中学年用



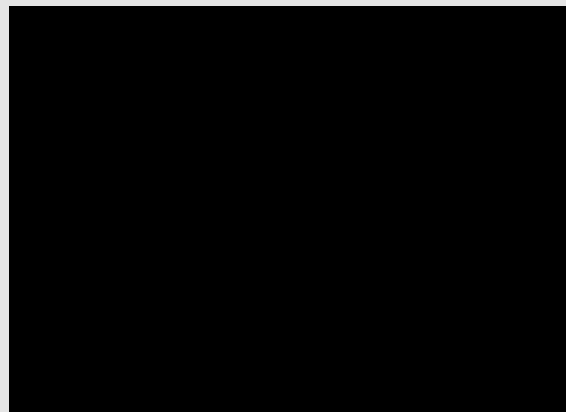
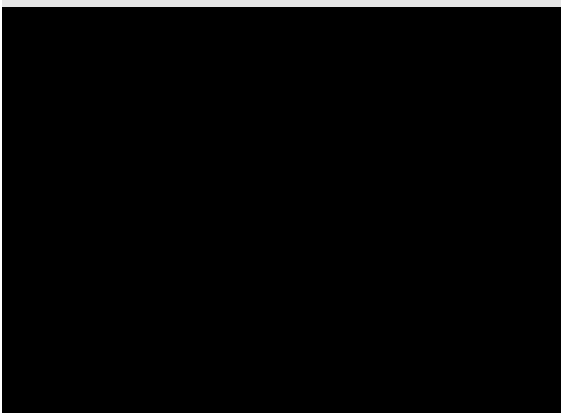
高学年用

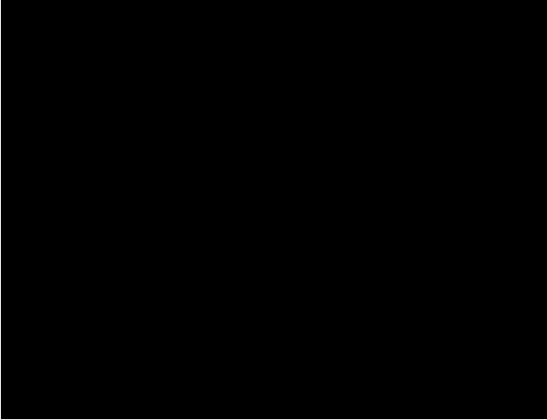


(3) 家庭学習調査

学力と早寝早起き朝ご飯などの生活習慣との関係を調べた結果、本校においては顕著な関係は見つからなかった。

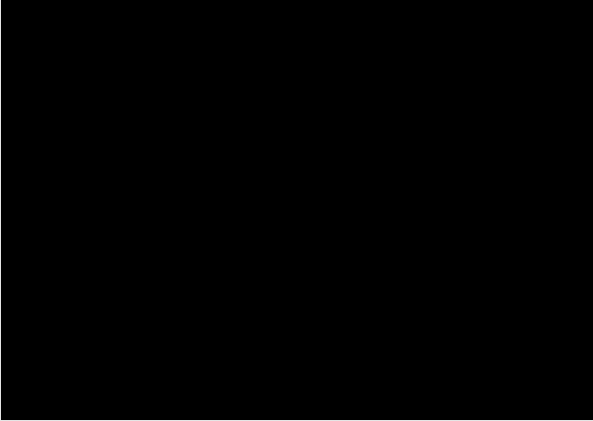
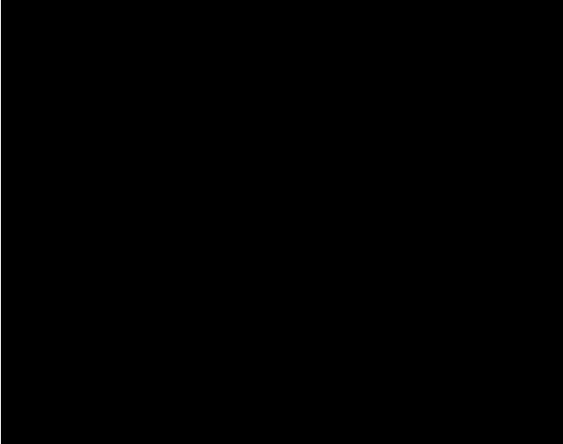
そこで、家庭学習調査を実施して、家庭学習と学力との関係を調べてみることにした。調査の結果とわかったことは以下のことである。



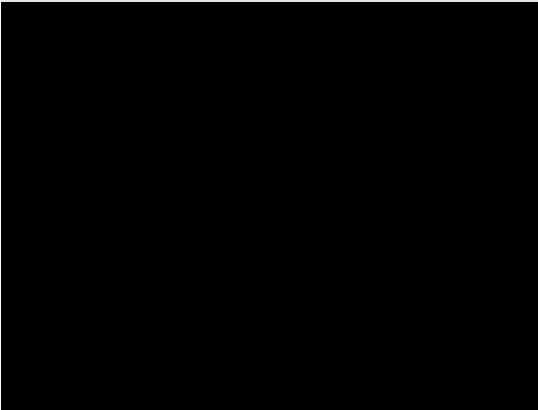


低学年では

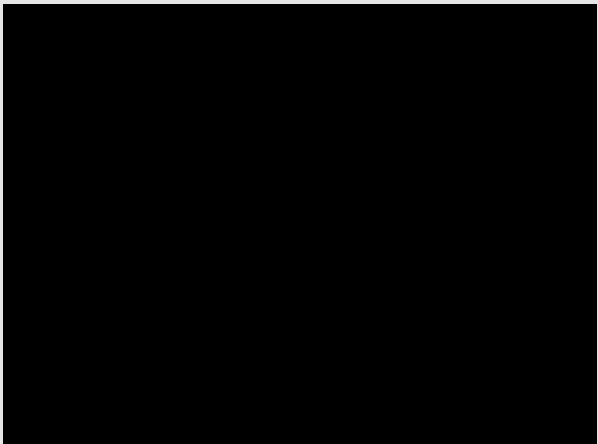
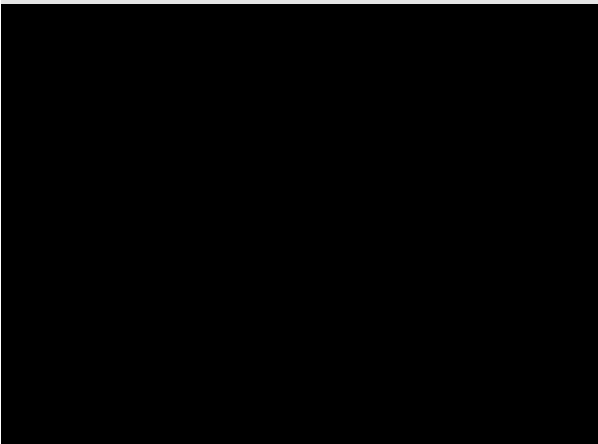
20～30分の家庭学習時間が多く、宿題以外の家庭学習では20分以下の児童と2時間超にはっきりと分かれ、低学年から正答率の高い児童はよく家庭学習に取り組んでいる。また、2年生になると他の学習内容も増えてきているが、1年生では、宿題中心の児童が多いので、内容を精選して出す必要がある。



中学年では



20分～1時間の家庭学習時間が多く、学年に相応している。また、正答率の低い児童に宿題以外に取り組む時間が少ないが、宿題にはよく取り組んでいるので、どんな家庭学習をしたらよいか学ばせる必要がある。



高学年では

1時間の家庭学習時間を中心に概ね正規分布しているので、自分の力に合わせて家庭学習していると考えられる。また、学習塾や学習教材の割合が多くなっているのは、学習が難しくなっているためだと考えられるので、どこかで、補充学習等が必要であると考えられる。

全体的にみると

正答率の高い児童は読書時間が多く、学年が進むにつれ学習内容が増えている。

また、6年生では塾や学習教材が多くなっているため、高学年では授業を補充する学習が必要と思われる。

(4) 読書量を増やす取組

上記のことから、環境部では読書量を増やすことに取り組むことにした。

- ・「はたらっこ」というマスコットを作る。
- ・はたらっこを共有フォルダーに入れプリントの隅に入れてもらい啓発を図る。

前ページのアンケート結果から、本校では「高得点を得た児童は、そうでない児童に比べて読書量がかなり多い」という結果が出た。それを受けて環境整備部では「読書啓発キャンペーン」を行い、全体の読書時間の増加を図ることにした。

本校では「あじさい読書月間」「あおぞら読書月間」「北風読書月間」を通して読書の推進を行っている。また、子どもたちには読書記録カードの活用や、読書量に応じてしおりがもらえる活動などを、年間を通して行っている。

本校独自の読書啓発キャラクターをつくり、そのキャラクターを通して、子どもたちの読書意欲を高めることにした。

キャラクターの設定に際しては、子どもたちから募集しラックに設定した。キャラクター上部の文言「本はこころのえいようだよ」は、職員のアンケートで決定し、下部の文言は、「深谷市学校教育ビジョン」を本校独自に改訂して「読書100冊運動」に決定した。

はたラッコ

生年月日 4月16日
性格 泣き虫だけどがんばり屋
特技 はたラッコたいそう
好きな食べ物 給食
将来の夢 オリンピックで金メダル
趣味 読書



また、これ以外にも下記のような啓発活動を行っている。

- ・全校集会（ラッコの紹介）
- ・図書委員会を中心とした読書集会（はたラッコを探せ！スタンプラリーキャンペーンなど）
- ・図書室に「はたラッコ」のぬいぐるみをデコレーションしたコーナーの設置。
- ・学校で印刷されるプリント類には、はたラッコを必ず刷り込む。
子どもたちには「本を読んでいるかわいらしいラッコ」として、特に低学年には好評を博し、読書量が増える傾向にある。

おわりに

平成20年度、21年度と埼玉県教育委員会より学力を伸ばす総合推進事業の指定を受け、研究を進めてまいりました。本校では、学力を向上させるために、特別支援教育の視点に立って、特別支援教育の考え方や手法を基に日々の授業改善を図ることをねらいとしてきました。また、学習環境を整えることも実践してまいりました。

児童の学力は、少しずつではありますが向上してまいりました。職員も手応えを感じています。研究はまだまだ十分ではありませんが、今後さらに多くの実践を積み重ねることにより、児童の学力向上を目指していくつもりです。本研究のために、ご指導いただきました先生方に、深く感謝を申し上げますとともに、一層のご指導を賜りたくお願い申し上げます。